

## 式辞

ただいま、入学を許可しました**358名**の新入生の皆さんを迎え、本日ここに、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、神奈川県立横浜翠嵐高等学校**第73回**入学式を盛大に迎えることができますことに、心からお礼申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、立派に成長したわが子の晴れ姿をご覧になって、さぞ頼もしく感じておられることであらうでしょう。心からお慶び申し上げます。

新入生の皆さん、入学本当におめでとう。

本校は、百年を超える歴史と伝統をもつ学校ではありますが、その校風として必ず取り上げられる言葉に「大平凡主義」があります。これは、初代校長であります滝沢又市先生が生徒に話された「平凡主義」という言葉が、時代とともに「大平凡主義」という言葉になって現在に伝えられています。

「大平凡」とは、平凡であることを大切にする、平凡であることの価値を認めて大切にする、言い換えれば当たり前のことを大事にして、一日一日を大切にする事なのです。どうか翠嵐生としての「平凡」とは何かを考え、それを当たり前に行えるよう努力してください。

次に本校は、昨年神奈川県教育委員会から学力向上進学重点校つまり

将来の日本や国際社会でリーダーとして活躍できる高い資質・能力を持った人材を育成する学校に指定されました。

私たち職員は、日頃の授業をとおして主体的、総合的、探究的に学び、将来のリーダーとして、自ら課題を発見し、自ら解決できるよう、教科を超えて様々な課題を関連付けて考えることのできる思考力・判断力・表現力の育成に取り組み、皆さんの進路実現を図っていきますので、皆さんも毎日を何となく過ごすのではなく、目の前にあるものに真剣に粘り強く取り組み、大きな夢や目標にチャレンジしてください。私たち職員もそのための努力を惜しみません。

そうは言っても、今の皆さんの表情を見ていると、これから始まる高校生活に対する期待と不安が混じり合っているように感じます。私は、人生において10代後半、まさにこれから始まる高校時代は、人生という大木を支える幹を形成する時期だと思います。将来、社会で活躍し、家族を支える立場になった時、大木で言うと枝葉をたくさんつけ、きれいな花を咲かせる時にさまざまな困難に出会うことがあります。その時に、自分自身を支えるのは、幹がしっかりしていることです。たくたくましい人生の幹を、この横浜翠嵐高校で作ってください。

これからの3年間、厳しいことやつらいこともたくさんあると思います。時には、自分だけでは抱えきれない不安や焦りを覚えることもあるでしょう。

そんな時は、「能力の差は小さいが、努力の差は大きい、継続の差は

さらに大きい」という言葉を思い出してください。そして、その努力が皆さんのすばらしい人生の幹を形成していくのだと思ってください。

ただし、その幹は自分一人では作れません。辛い時、苦しい時にこそ、家族や友達、先生に相談をしてください。このくらいのことだと…悩みをためないことです。悩みに大小なんてありません。笑って相談できることも、真剣に相談したいことも「同じ悩み」だと思います。

ここで、保護者の皆様に一つだけお願いがあります。

私たち職員は、この学校を舞台にして、生徒一人ひとりの意欲や努力する心を育てながら生徒の皆さん一人ひとりの成長を、責任を持ってサポートしてまいりますので、どうか学校に足を運んでいただき、授業参観や学校行事をとおして、「お子様」の成長の様子を見守っていただきたいと思います。

最後になりますが、新入生の皆さんが、横浜翠嵐生として自信と誇りを持ち、「初心を忘れることなく」、一人ひとりの夢実現に向かって、自らを磨き、鍛え、新しい自分を創造していくことができるよう、皆さんの努力と活躍に期待して式辞といたします。

平成 30 年 4 月 6 日 横浜翠嵐高等学校長 佐藤 到